

# 定住自立圏構想推進シンポジウムin八戸 ～人材の育成と交流による地域力の創造～について

弊会では、総務省が掲げる「定住自立圏構想」についてポータルサイトを開設し、その内容と今後の取組み、並びに関連した情報を紹介しています。

今号では、去る2月に総務省主催で開催されました『定住自立圏構想推進シンポジウムin八戸～人材の育成と交流による地域力の創造～』のご紹介をいたします。

**開催報告** 主 催：総務省

開催日時：平成25年2月18日（月） 13:10～17:00

開催場所：八戸グランドホテル2階 グランドホール（青森県八戸市番町14番地） 参加人数：216人

## 1. 開催趣旨

この度、定住自立圏で設定する三つの政策分野のうち「圏域マネジメント能力の強化」に着目し、地域を担う人材の育成と交流に関する基本的な考え方や先進事例の発表を踏まえ、そのあり方について議論を深め、各圏域の取組に展開していくことを目的としてシンポジウムを開催いたしました。

これからの時代、地域独自の価値や魅力を高める創造的な人材が行ってみたい住んでみたいと思うような地域づくりが求められています。そうした定住自立圏の将来を担う人材の育成や交流のあり方について議論しました。

## 2. 概 要

### ◆取組事例報告：アーティスト定住実験プロジェクト「引っ越してきたアーティスト！」

○青森県八戸市長 小林 真

八戸圏域定住自立圏では、「ドクターカー運行事業」等に取り組む他、圏域の市町村議員により八戸圏域定住自立圏形成促進議員連盟を組織して、定住自立圏の形成に取り組んでいる。平成24年度は、定住自立圏推進調査事業を活用し、アーティスト定住実験プロジェクト「引っ越してきたアーティスト！」を実施。八戸市南郷区にアーティストが移住し、様々な取組を通して住民と一緒に地域を元気にする活動について報告。

### ◆パネルディスカッション「地域づくりを担う人材の育成と交流」

○関西学院大学大学院経済学研究科人間福祉学部 教授 小西砂千夫（コーディネーター）

定住自立圏は、自治体の枠組みを超えて連携する仕組みであり、スムーズに取組を進めていくことはなかなか難しい。八戸市は定住自立圏における先進地域。特に議員連盟を通じて交流を図り、政策課題を共有しているところは特筆すべきところ。

○アサヒグループ芸術文化財団 顧問 加藤種男（パネリスト）

柔軟な発想のリーダーがいるところには、創造的な人材が集まる。アーティストが自分の思いを表現するばかりでなく、地域住民の思いを表現する手助けをすることで、一人ひとりが主役となり、生きがいを持って生きていけるような地域社会を形成することができる。

○青森県八戸市長 小林 真（パネリスト）

八戸市は、昔から移住者が多く、「よそ者」が地域を発展させてきた。芸術やアートにとどまらず、様々な人が集まり活動することによって、八戸の元気につながっている。

○総務省 地域力創造グループ 地域自立応援課長 牧慎太郎（パネリスト）

都市機能や雇用の場を持つ都市と、豊かな自然を持つ周辺地域が圏域を形成する定住自立圏域の枠組みは非常に有効。高齢者がどれだけ頑張ったとしても、次の世代が続かないことには長く続かない。持続可能な地域づくりを行うためには、若者の力が不可欠。豊かな自然は若者を惹きつける。子どもが生まれる地域をつくりあげることができれば、活力ある地域づくりは十分維持できる。若者を地域に呼び込む手段として、総務省は「地域おこし協力隊」や「城学連携」など様々なメニューを用意している。

### ◆特別講演「地方分権時代の自治体連携～定住自立圏のめざすべきもの」

○総務省 地域力創造アドバイザー 椎川 忍

定住自立圏の仕組みは非常に柔軟にできており、自治体の独自性にゆだねられている。地域間競争が激しくなる中、各自治体が自分の役割を把握して協調することが重要となっている。社会構造は、縦型構造から地方分権改革とICTによりネットワーク型の横型構造へと大きく変わった。自治体共通の地域課題については、人材やノウハウなど横つながりを活用して解決を図る時代になっている。



## 「マイナンバー法成立」2016年1月運用開始

国民一人一人に社会保障と税に関する共通番号を割り振って管理する「マイナンバー」制度の関連法が5月24日の参議院本会議で可決、成立しました。「マイナンバー」は2015年秋に国民一人一人に通知され、2016年1月に制度の運用が始まります。

この「マイナンバー」制度導入によるメリットの一部を以下にまとめてみました。

### 社会保障給付の申請・届出等の際の国民負担が軽減されます

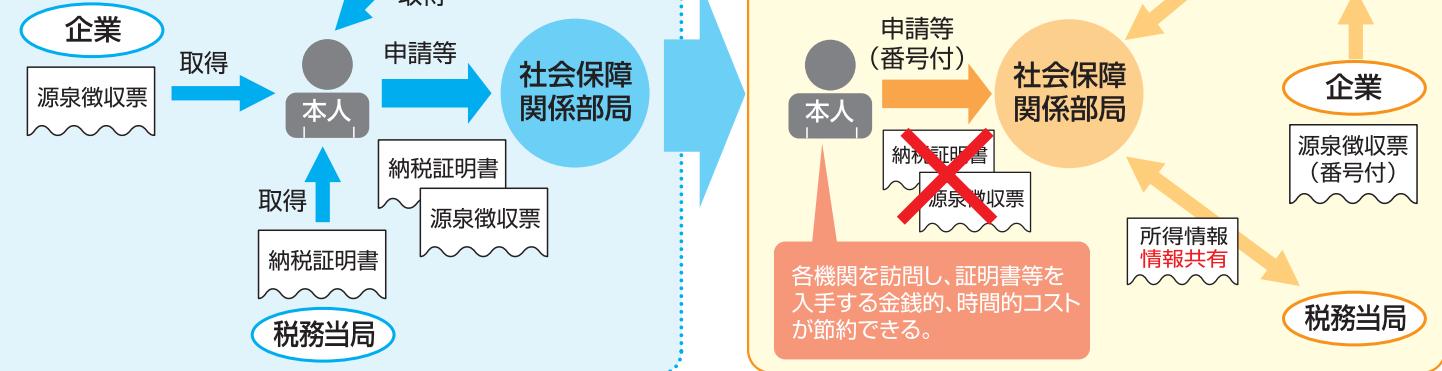
添付書類の削減 ○各種申請・申告等に必要な行政機関が発行する添付書類（納税証明書等）の省略ができる。

#### 現状

社会保障関係部局への各種申請・申告等には各機関（市役所、税務署等）を訪問し、証明書等を入手し添付しなければならない場合がありました。

#### 今後

社会保障関係部局への各種申請・申告等に必要な行政機関が発行する添付書類（納税証明書、源泉徴収票等）の省略ができる



### 社会保障に関する自己情報等の入手が容易になります

#### マイ・ポータルを活用した自己情報の入手

○マイ・ポータル（注）により、いつでも社会保障に関する自己情報（注）利用者が自家のパソコンや行政機関等に設置されたパソコンから、自分の情報や各種行政サービスを閲覧できるとともに、各種手続も行うことができる個人用のホームページのようなものを想定。

#### 現状

自分の情報を知りたい場合、情報を持つそれぞれの機関に対して問い合わせを行わなければなりませんでした。

#### 今後

マイ・ポータルにより、いつでも社会保障に関する自己情報や行政からの各種お知らせ等を入手することができるようになります。



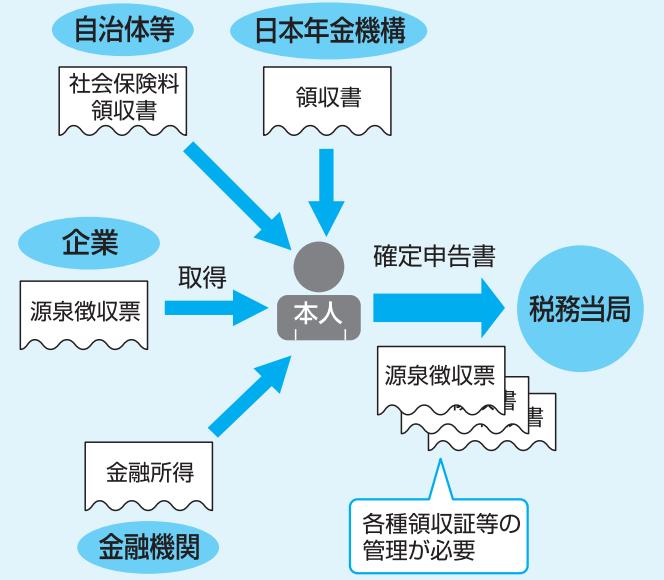
## 税金の確定申告の際の国民利便が向上します

### 確定申告の際の自己情報の確認

○社会保険料控除の対象となる保険料や税務署が把握している納税者の所得の情報などをマイ・ポータルで確認できるようになり、より簡単に正確な確定申告ができるようになります。

### 現状

確定申告の際には、各種領収書等の管理が必要でした。



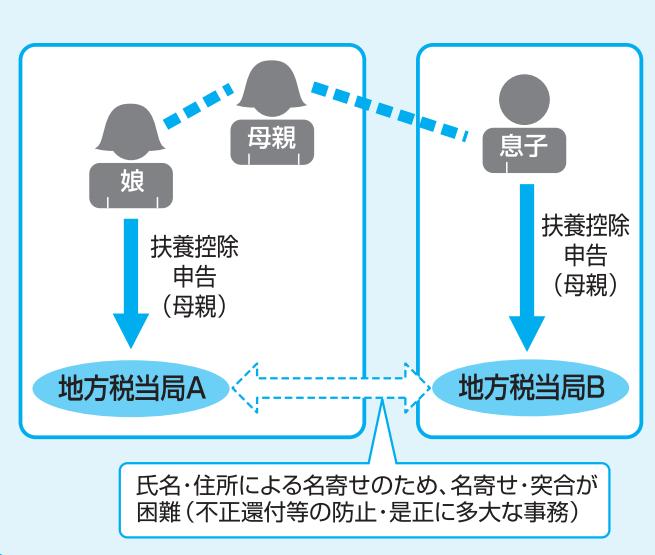
### より公平で正確な税負担が実現します

### 所得の過少申告等の防止・是正

○税務当局が保有する各種所得情報を番号を用いて正確かつ効率的に名寄せ・突合することにより、所得の過少申告や税の不正還付等を効率的に防止・是正できる。

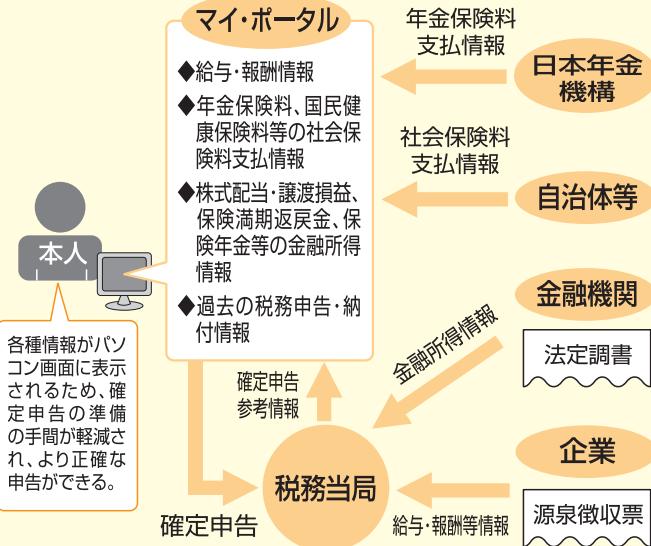
### 現状

氏名・住所による名寄せのため、名寄せ・突合が困難でした。



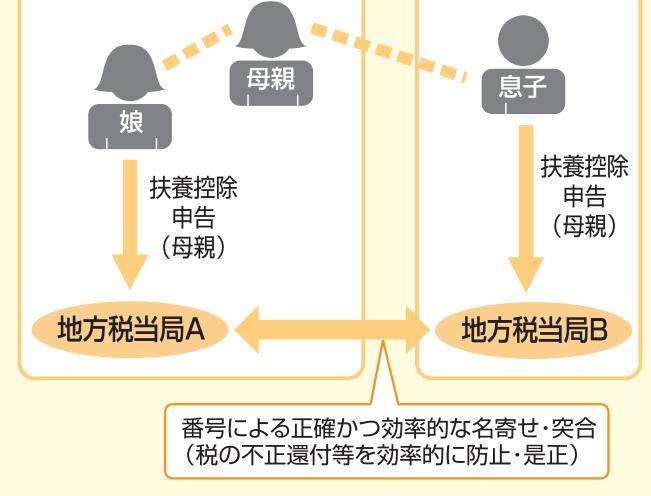
### 今後

社会保険料控除の対象となる保険料や税務署が把握している納税者の所得の情報などをマイ・ポータルで確認できるようになり、より簡単に正確な確定申告ができるようになります。



### 今後

税務当局が保有する各種所得情報を番号を用いて正確かつ効率的に名寄せ・突合することにより、所得の過少申告や税の不正還付等を効率的に防止・是正できるようになります。



## 地図地理検定

過去問を解いて「地図地理検定」にチャレンジ!!  
URL <http://chizuchiri.wook.jp>

一般財団法人日本地図センター・公益財団法人国土地理協会は、地図や地理の知識を豊かにし、地図を楽しく読み・使う力を養うため「地図地理検定」を実施しています。このたび「地図地理検定」の過去問や解説が電子書籍形式で入手できるサイトがオープンしました。

問題集(正解表つき)は無料で閲覧できます。

なお、解説つき問題集は¥100(税込)で販売しています。

## 地図地理クイズ!

「今回は、第18回地図地理検定の問題からの出題です。」

### 1 クイズ

#### 【一般】

問 下の①～④のうちで、実際の距離が一番長いのはどれですか。下の①～④のうちから1つ選びなさい。

- ① 100分の1の地図上で、150cm
- ② 2,500分1の地図上で、10cm
- ③ 50,000分1の地図上で、5mm
- ④ 200,000分1の地図上で、1.5mm

### 2 クイズ

#### 【一般】

問 欧州連合に加盟している国で、ユーロを導入していない国が数カ国あります。ユーロを導入していないある国で、現在も使われている通貨はどれですか。

下の①～④のうちから1つ選びなさい。

- ① ポンド ② フラン ③ マルク ④ リラ

### 3 クイズ

#### 【専門】

問 市町名とその所属する県名との組合せのうち、間違った組合せを、下の①～④のうちから1つ選べ。

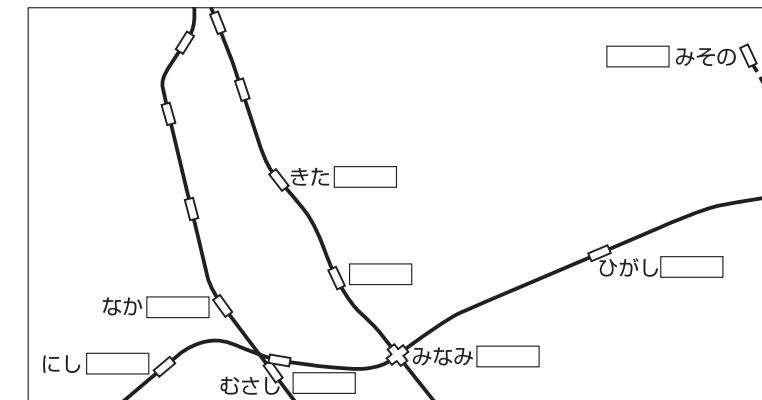
- ① さくら市／栃木県 ② みどり市／群馬県 ③ うきは市／福岡県  
④ あさぎり町／静岡県

### 4 クイズ

#### 【専門】

問 次の図は、ある都市の鉄道網の一部を示したものである。駅名注記の中の四角形には共通する地名が入る。これらの駅がある都市名として、正しいものを、下の①～④うちから1つ選べ。

- ① 川口市 ② さいたま市 ③ 八王子市 ④ 府中市



解説  
JR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、2005(平成17年)年4月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、2003(平成15年)年4月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、2001(平成13年)年5月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、2000(平成12年)年4月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1999(平成11年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1998(平成10年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1997(平成9年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1996(平成8年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1995(平成7年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1994(平成6年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1993(平成5年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1992(平成4年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1991(平成3年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1990(平成2年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1989(平成1年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1988(平成0年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1987(昭和62年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1986(昭和61年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1985(昭和60年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1984(昭和59年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1983(昭和58年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1982(昭和57年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1981(昭和56年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1980(昭和55年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1979(昭和54年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1978(昭和53年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1977(昭和52年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1976(昭和51年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1975(昭和50年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1974(昭和49年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1973(昭和48年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1972(昭和47年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1971(昭和46年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1970(昭和45年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1969(昭和44年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1968(昭和43年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1967(昭和42年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1966(昭和41年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1965(昭和40年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1964(昭和39年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1963(昭和38年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1962(昭和37年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1961(昭和36年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1960(昭和35年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1959(昭和34年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1958(昭和33年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1957(昭和32年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1956(昭和31年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1955(昭和30年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1954(昭和29年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1953(昭和28年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1952(昭和27年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1951(昭和26年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1950(昭和25年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1949(昭和24年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1948(昭和23年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1947(昭和22年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1946(昭和21年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1945(昭和20年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1944(昭和19年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1943(昭和18年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1942(昭和17年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1941(昭和16年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1940(昭和15年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1939(昭和14年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1938(昭和13年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1937(昭和12年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1936(昭和11年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1935(昭和10年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1934(昭和9年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1933(昭和8年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1932(昭和7年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1931(昭和6年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1930(昭和5年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1929(昭和4年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1928(昭和3年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1927(昭和2年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1926(昭和1年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1925(大正14年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1924(大正13年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1923(大正12年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1922(大正11年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1921(大正10年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1920(大正9年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1919(大正8年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1918(大正7年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1917(大正6年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1916(大正5年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1915(大正4年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1914(大正3年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1913(大正2年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1912(大正1年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1911(明治44年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1910(明治43年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1909(明治42年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1908(明治41年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1907(明治40年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1906(明治39年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1905(明治38年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1904(明治37年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1903(明治36年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1902(明治35年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1901(明治34年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1900(明治33年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1899(明治32年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1898(明治31年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1897(明治30年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1896(明治29年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1895(明治28年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1894(明治27年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1893(明治26年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1892(明治25年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1891(明治24年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1890(明治23年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1889(明治22年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1888(明治21年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1887(明治20年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1886(明治19年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1885(明治18年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1884(明治17年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1883(明治16年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1882(明治15年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1881(明治14年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1880(明治13年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1879(明治12年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1878(明治11年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1877(明治10年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1876(明治9年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1875(明治8年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1874(明治7年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1873(明治6年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1872(明治5年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1871(明治4年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1870(明治3年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1869(明治2年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1868(明治1年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、1867(明治0年)年3月にJR東日本が運営する「JR東日本地図検定」では、186